

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 古川 洋一  
東京大学医科学研究所・教授

研究要旨 がんゲノム医療の普及のために、1) 検査技師、薬剤師、看護師に対するゲノム医療に関する教育、2) 医師に対するゲノム医療に関する教育と啓発、3) 一般市民に対するゲノム医療に関する啓発活動を行い、これらの活動における質疑応答・意見聴取を通じて、参加者の理解度や疑問点を把握し、注力すべきポイントの検討を行った。

#### A. 研究目的

本研究は、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会の「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」の中の、がんゲノムネット・ワーキンググループ(WG)が作成する情報ツールの立案・実施のために、提供に含むべき事項や伝達すべき内容の整理と、注力すべきポイントの把握を目的としている。

#### B. 研究方法

研究分担者が行った講演活動や、厚労省の委託事業「がんゲノム医療コーディネーター講習会」における質疑応答・意見聴取を通じて、参加者の理解度や疑問点を把握し、注力すべきポイントを検討した。倫理面への配慮(匿名化された参加者の情報なので)特に問題はない。

#### C. 研究結果

医療者では遺伝子変異の記載方法や、変異の意義に関する理解、また二次的所見や遺伝性腫瘍に対する理解が十分ではないと思われた。

#### D. 考察

医療者の中でも、それぞれの業務の専門性からゲノム医療に必要な知識の理解度がかなり異なっており、多様な教育・啓発活動が必要である。

#### E. 結論

本研究で得られた成果をWGが作成するツールに反映する予定である。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- (1) Furukawa Y. Implementation of genomic medicine for gastrointestinal tumors. Ann. Gastroenterol. Surg. 2(4):246-252, 2018.
- (2) Matsuura M, Yamaguchi K, Tamate M, Satohis

a S, Teramoto M, Iwasaki M, Sugita S, Hasegawa T, Koubo R, Takane K, Ikenoue T, Furukawa Y, Saito T. Efficacy of liquid-based genetic diagnosis of endometrial cancer. Cancer Sci. 109(12):4025-4032, 2018.

(3) 古川 洋一「変異」「DNA損傷と修復」「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」p14-p19, 診断と治療社, 2018年10月発行

(4) 山口 貴世志, 古川 洋一「次世代シーケンス解析技術の進歩とその臨床応用」遺伝子医学MOOK34号「臨床応用に向けた疾患シーケンス解析」p27-p31. メディカルドゥ, 2018年11月発行

##### 2. 学会発表

(1) 古川洋一、「がん診療へのNGSとIBM Watsonの利用」、第59回日本臨床細胞学会春季大会 2018/6/2、札幌

(2) 古川洋一、「がんゲノムと精密医療」教育講演、日本人類遺伝学会第63回大会 2018/10/12、東京

(3) 古川洋一、「次世代シーケンス解析を用いたゲノム医療の展開」、第51回神奈川県消化器病医学会総会, 2018/11/10、新横浜

(4) 古川洋一、「ゲノムと人工知能が導く新たながん医療」、新学術領域研究2018年度市民公開シンポジウム, 2018/12/3、大阪

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし